



# ごみの減量にご協力を

## 処理経費に年間3億円!!

私たちの生活からは、毎日多量のごみが出ます。生活水準の向上と様式の多様化に伴って、ごみの排出量は年々増加し、その処理経費も急増してきています。そこで、市では、ごみの減量を強く進めて行きたいと思えます。しかし、減量は行政の力だけではなく、市民の皆様一人ひとりのご協力があって、はじめて可能になるのです。

どうか主旨をよくご理解いただき、減量にご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

### ◎一〇年間で 六八%の増加

市全体のごみの排出量は、昭和四十八年度が五、二〇〇トンで、五十八年度は八、七五〇トンとなっており、この一〇年間で、五五〇トン(六八・三%)増えたこととなります。

また、市の一人当りの排出量は、隣接する油谷町、三隅町、日置町に比べて、約三倍にもなっています。

### ◎ごみ処理の費用に 年間三億円

五十九年度に市がごみ処理(収集・運搬・焼却・灰埋立、不燃物・大型ごみ処理)に要する経費は三億円を超える見込みで、このまま放置すれば市の財政をたいへん圧迫することになります。

ごみを適正に処理することは、



美しい環境を維持する上で非常に大切です。しかし、反面、ごみ処理は物を生産するのではなく、お金をそのまま焼くことと同じで、大変にもったいない話です。

### ◎ごみの減量は 大きな節約

各家庭から納めていただく収集料金は月額六〇円で、一日にすると「二円」となります。

この収入が市全体で、年間約八五〇万円となりますが、ごみの処理費用が三億円を要しますので、これではとても追いつき

ません。従って、不足分は税金で補うこととなります。

そこで、むだなごみを出さないようにして減量することが、大切な税金の節約になります。

### ◎ごみの減量は この方法で

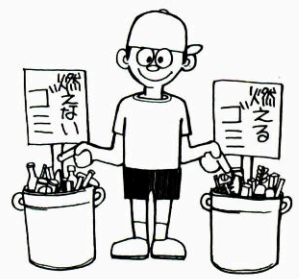
① 生ごみはよく水切りをして出しましょう。

生ゴミの重さのなんと七〇～八〇%は「水分」です。焼却場では油で水を焼く状態です。水分を充分に切ることが減量で一番大切なことです。



② 燃えるごみと燃えないごみはよく分けて出しましょう。

可燃物の中に缶類が混入しますと焼却炉の中に入れますので、資源として再利用できません。缶類はできるだけ再利用いたしますので、可燃物と不燃物はよく分けて出しましょう。



③ 家庭で処理できるごみは、家庭で処理しましょう。

木くず、紙くず等は風呂だき、調理くず等はできるだけ農村部では、畑に還元し肥料にしましょう。



④ 大型ごみは業者に下取りに出しましょう。

冷蔵庫、洗濯機、布団等が大型ごみとして出ますが、業者に下取りに出して再資源として活用しましょう。

⑤ 過大包装はことわりましょう。

最近の商品は、見栄えをよくするために、必要以上の包装をすることが多くなっています。

⑥ 古紙等は再資源にしましょう。

古新聞、古雑誌等はごみとして出さず、チリ紙交換などに出して再資源として活用しましょう。

